

はじめに

## 第I編 八雲立つ出雲は滝の国

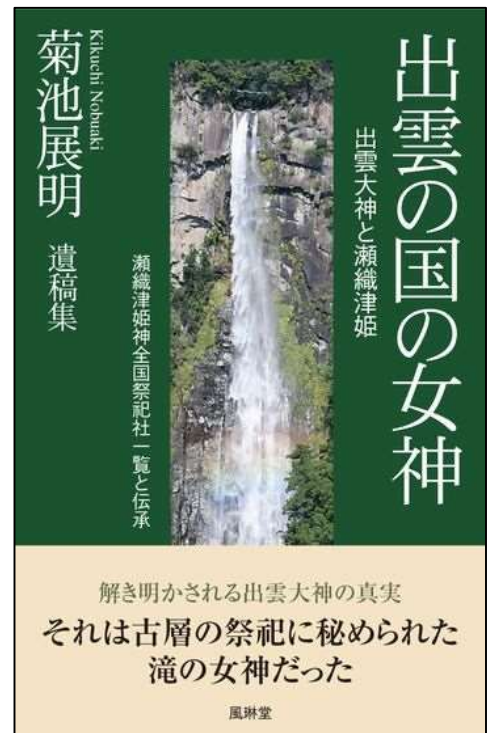
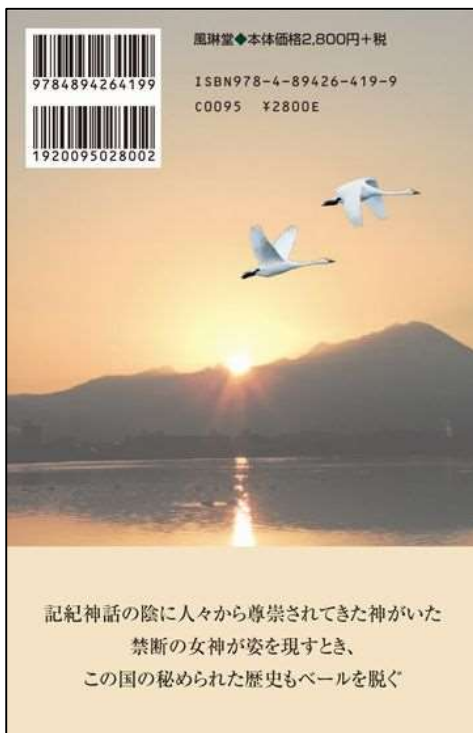
- 一 大国主大神の揺らぎ——祀り祀られる神
- 二 熊野大神の揺らぎ——「秘伝」が語る豊受大神
- 三 素戔鳴尊の揺らぎ——はじまりの神称
- 四 クロスする出雲と熊野——音無川水源の神
- 五 豊受大神の揺らぎ——揺らぎの背景に朝廷
- 六 『出雲国造神賀詞』から『出雲国風土記』へ——朝廷への服属と神々の変貌
- 七 滝の記述を避けた『出雲国風土記』——屈折した神まつり
- 八 八雲立つ出雲は滝の国——八雲に秘められた出雲大神

## 第II編 もう一つの出雲大神へ

- 一 荒神の国・出雲——「国譲り」に抵抗する神々
- 二 荒神と化した滝神——救世の誓いを胸に
- 三 もう一つの出雲——秘められた神々と神名の創作
- 四 「あだか」と呼ばれた出雲——風土記以前の地名
- 五 「あだ」の国・出雲——出雲を「いまわしい」国とみなした朝廷

## 第III編 出雲大神の地下水脈

- 一 「あだ」の神の広がり——祭祀の変質と神々の改ざん
- 二 天甕津姫という神——名も祭祀も消された受難の神
- 三 崇り神としての出雲大神——口をきけなくなった皇子譚
- 四 『古事記』から『日本書紀』へ——消えた「出雲大神」



- 五 出雲の多具(多久)の国の神——原・出雲国の大神
- 六 出雲人の祭る神——朝廷への面従腹背と水底の神

#### 第IV編 出雲大天女とは

- 一 神話の舞台は隼人「はやひと」の国から出雲の国へ——古代隼人の祀る神
- 二 隼人と南方諸島の神話——神話の神は黒潮とともに
- 三 古代の出雲と海人族の神——アラハバキ神と大山積神
- 四 出雲井の神——井の神・瀬織津姫神はクナトの神
- 五 鉄の女神——産鉄につながる伝説と祭祀
- 六 日神神話と加賀「かか」の潜戸「くけど」——金の弓矢と大神の誕生
- 七 潜戸神話の原像——天道信仰から見えるもの
- 八 神門臣古禰と出雲振根(出雲臣の遠祖)——西出雲の古代の王
- 九 『出雲国風土記』から消えた滝神——創作された宇比多伎山の神
- 十 撞賢木蔽之御魂天疎向津媛命とは——日神の対偶神
- 十一 スサノオ女神論——記紀神話創作による神々の性転換
- 十二 摩多羅神の背後にいる神——弁財天と習合する瀬織津姫神
- 十三 出雲大社「八雲」に秘められた神事——八雲の神は雲井滝神

#### 巻末資料

「全国瀬織津姫神・異称祭祀社一覽及び伝承」について

あとがきにかえて

本書関連神社案内図

第I編～第III編 菊池展明著、第IV編 風琳堂おかみ著